

令和7年度文化財担当者研修予定表

R6.10.9

課程名	副題	定員	日程	内容	備考	申込
古文書歴史資料調査基礎課程	古文書・歴史資料の調査・取扱の入門編	15	R7.6.2 月 ～ R7.6.6 金	古文書・歴史資料の調査・管理等を担当する立場にあるが、当該分野に関する専門的教育を受けたことのない地方公共団体等の文化財担当者を対象に、基礎的知識の習得を目指す研修。		
文化財石垣保存整備(実習)課程	城郭石垣等の保存活用に関する基礎的研修の実習	10	R7.6.11 水 ～ R7.6.13 金	文化財石垣保存整備(講義)課程を受講した者を対象に、文化財石垣の保存活用に必要な専門的知識や管理活用事例などについて、実習を通じて基礎的な知識の習得を目指す。	協力:石川県金沢城調査研究所 開催地:金沢市	
建築遺構調査課程	建築遺構や出土建築部材に関する基礎的研修	15	R7.6.16 月 ～ R7.6.20 金	発掘調査で検出される建築遺構(竪穴建物・掘立柱建物・礎石建物・基壇)や出土建築部材を理解するために必要な、建物の上部構造に関する専門的知識や、上部構造を考えるために必要な情報を得るための発掘方法などについての基礎的研修。		
建造物保存活用計画策定課程	文化財建造物の保存活用計画策定に必要な基礎知識の習得	10	R7.6.30 月 ～ R7.7.4 金	文化財建造物の保存活用計画策定に関わる自治体担当者を対象に、法制度、保存管理、環境保全、活用等について、講義、実地研修および演習を通じて、計画策定に必要な知識の習得を目指す。		
木質文化財の科学的調査課程	木質文化財を担当する際に知っておいて欲しいこと	12	R7.7.8 火 ～ R7.7.11 金	木質文化財に関する科学的知識を学ぶ機会が無く、どのように取り扱ったら良いのかわからない。そんな声にお応えすべく、木材科学、年代学、保存科学など木質文化財に関わる科学的な知識を、講義・実習を通して学び、担当現場に生かすことを目指します。		
遺跡地図・GIS課程	調査研究業務でGISを活用するために	対面:15名 オンライン 同時開催: 制限なし	R7.7.14 月 ～ R7.7.18 金	遺跡地図およびGISの利用に関して必要な専門知識と技術の習得を目指した研修。QGISによる演習、データ管理やデータ活用手法についても学ぶ。	オンライン参加については、演習時に十分なサポートが受けられないこと、ご承知おください	
文化財三次元計測課程	これからの埋蔵文化財発掘調査に資する三次元計測技術の習得	12	R7.9.29 月 ～ R7.10.3 金	埋蔵文化財調査における三次元計測と三次元モデルの解析および図の作成等、データの取得から活用の実践を講義と実習を交え習得する。三次元計測方法はRealityCaptureを使ったSfM-MVS(フォトグラメトリ)を中心に、3DレーザースキャナーやLiDAR、GNSS等を扱う。		
土器・陶磁器調査課程	遺跡から出土する土器・陶磁器の分類・整理・調査法に関する研修	15	R7.10.6 月 ～ R7.10.10 金	発掘調査報告書の作成に向けて、遺跡から出土する土器・陶磁器に関する専門的知識を習得すると共に、製作技法や時期・産地を推定できる鑑識眼を養う。		
保存科学(材質・構造調査)課程	無機質遺物の保存処理の際に実施する、主に非破壊的手法による材質・構造調査についての基礎的な研修	8	R7.10.14 火 ～ R7.10.17 金	本課程では、金属製造物やガラス製造物などの無機質遺物の保存処理の際に実施する非破壊材質・構造調査法として最も一般的に利用されているX線透過撮影による構造調査および蛍光X線分析について、原理や特長そして限界について様々な事例を取り上げながら講義を行うとともに、実習を通じて理解を深める。	保存科学(遺構・石造文化財)課程と連続して実施	
保存科学(遺構・石造文化財)課程	遺構・石造文化財を対象に劣化要因の理解、それに基づく保存処理方法・保存環境の策定までを目的とした研修	10	R7.10.20 月 ～ R7.10.24 金	本課程は土壌や石で構成される遺構を対象として、石の強化・撥水処理方法の実習をおこなうとともに、環境制御による遺構の保存法を習得することを目的とし、遺構の劣化要因および劣化の進行に対して環境がおよぼす影響について、環境調査の実習などを交えて学ぶ。	保存科学(材質・構造調査)課程と連続して実施	
文化財写真課程	文化財各分野の写真記録に必要な基礎知識とデジタル写真を中心とした実習	15	R7.11.17 月 ～ R7.11.28 金	文化財の記録保存と活用において中心的な役割を持つ写真記録について必要不可欠な写真技術の基礎知識と、デジタル写真を中心とした実習を通じて実技を習得する研修。	3課程は連続して実施	
報告書編集基礎課程	報告書を刊行するための基礎知識を学ぶ研修	20	R7.12.1 月 ～ R7.12.5 金	文化財調査記録に必要な不可欠な報告書出版について、記述内容の意義や記述記録の基礎知識を習得する研修。	3課程は連続して実施	
報告書デジタル作成課程	報告書作成でデジタル技術を活用する研修	15	R7.12.8 月 ～ R7.12.12 金	報告書出版に必要な編集知識や図版制作について、デジタル技術を活用しながら出版物作成をおこなう実践的な技術を習得する研修。	3課程は連続して実施	
災害痕跡調査課程	埋蔵文化財調査の成果を広く活用し、地域の安全・安心に役立てるための技術の習得	20	R8.2.17 火 ～ R8.2.20 金	発掘調査で発見される様々な災害痕跡の見分け、調査・記録法について、剥ぎ取り資料などを用いて、一般的な堆積物の記載方法と比較しながら学ぶ。また地域防災・減災教育への活用事例や、データベース構築に向けた情報の整理など、具体的な活用事例についても触れる。		
文化財三次元計測課程(入門)	フォトグラメトリを用いた文化財三次元計測の基礎を習得(開講地域への講師出張型課程)	12	～	文化財調査のためのフォトグラメトリ等の三次元計測方法の基礎と実技を習得する。また開講地域が抱える三次元計測関係の課題について解決に向けた方法を検討する。(開催地域には参加優先枠を設定する。)	日程は開催希望地域と相談の上、決定。 期間は3日間程度。 ※奈文研外での開催を予定	

※1 研修参加決定通知は研修開始日の約1ヶ月前に通知の予定です。
 ※2 保存科学(材質・構造調査)課程・保存科学(遺構・石造文化財)課程は、続けて受講することができます。
 ※3 文化財写真課程・報告書編集基礎課程・報告書デジタル作成課程は、続けて受講することができます。
 ※4 最新情報はウェブサイトですら随時お知らせいたします。

修正箇所